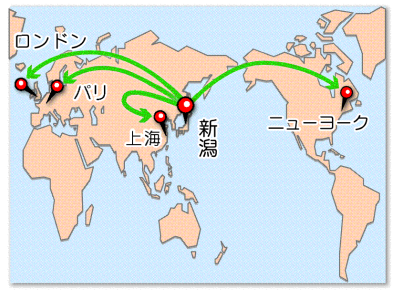
2018年07月02日 新潟日報 朝刊 解説面 009頁

(C)新潟日報社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

グローバル にいがた

国際交流拠点から

新潟日報社が開設した米ニューヨーク（NY）、ブラジル・サンパウロ、中国・上海、欧州（パリ）の国際交流拠点などを通じ、海外で暮らす本県関係者から現地の様子をリポートしてもらい、毎月第1月曜日に紹介しています。また、新潟日報ホームページ「モア」にも掲載し、感想や意見を受け付けています。



第1月曜掲載

from パリ

自転車で地域に活気

水島　優さん
＝新発田市出身＝

自転車大国というと、かつての中国やオランダなどを想像する人も多いと思いますが、ここフランスも自転車大国として知られています。

自転車競技というと日本では競輪のイメージが強いようですが、フランスだと一日200～300㌔を走るようなロードレースが一般的です。フランスでは1903年からツール・ド・フランスという世界で一番大きいロードレースが開催され、毎年1000万人以上が観戦し30億人が視聴するというのですから、最初に聞いた時は驚いたものです。

パリの街中を走る自転車も古いものから新しいものまでさまざまで、タイヤの細い40年前のスポーツ自転車を、長いスカートをなびかせながらハイヒールでこいでいるすてきな女性などもいます。パリジェンヌらしい、新しい物と古い物を組み合わせながら自分なりにオシャレに着こなすライフスタイルが、この自転車にも表れています。

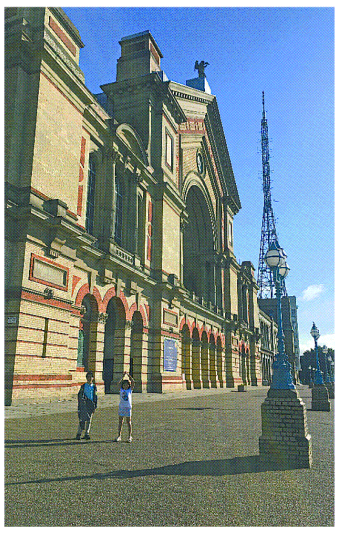
毎年6月末にソミュールという人口3万人にも満たない街で開催される「アンジュー・ベロ・ビンテージ」というイベントがあります。元々はビンテージの物を売買するイベントでしたが、自転車のイベントを始め、今では4万人を超える人が集まるまでになりました。

内容はといえば、ビンテージの服を着て、ソミュールを含むアンジュー地域を回りながら、途中途中でその土地の料理やワインを味わいながら走るというものです。前夜祭のステージでは、老若男女が踊って楽しみ、ライド当日の雰囲気はとても緩く、最初からゴールする気がなく飲んだくれている人たちや、途中のカフェで友達の誕生日を祝っている人たちなど、さまざま。街の人たちもそれをお祭りのように楽しんでいます。

「アンジュー・ベロ・ビンテージ」で走る参加者たち

私は仕事を通して観光業に関わることも多いのですが、観光客数世界一であるフランスの観光に関する取り組みの仕方はとてもしっかりしていて、地方都市でも面白いことをたくさんやっています。フランスにお越しの際は、ぜひ地方都市にも立ち寄ってもらいたいと思います。

（水島さんは1983年生まれの写真家で、2003年からフランス在住。14、15年に新発田市で行われた自転車のイベント「ガールズ・レトロ・ライド」発起人の一人です）


丘の上のアレクサンドラパレスと、今も使われている電波塔

from ロンドン

丘の上は娯楽の宝庫

鈴江　彩さん
＝英国新潟県人会会員＝

私の住んでいる北ロンドン地域にはアレクサンドラパークという広い公園があり、その丘の上にはアレクサンドラパレスというイベント会場があります。丘の上からはロンドン中心部に立ち並ぶモダンなガラス張りの超高層ビルが遠目に見渡せます。

ロンドンの夏は日が長く、夜9時を過ぎてもまだ明るいので、天気の良い日には、仕事の後に子供を学童保育施設に迎えに行った後、丘の頂上でピクニックをします。日常の慌ただしいスケジュールから少し開放された一時を家族と過ごし、とてもすがすがしい気分になります。

このアレクサンドラパレスは、1873年にビクトリア女王54歳の誕生日を祝してコンサート・イベント会場としてオープンしました。残念ながら2週間とたたないうちに火災で焼失。その後2年かけて再建し、当時欧州域内でも最大級のパイプオルガンを備えた会場に生まれ変わったものの、1980年にまた焼失し、再建されました。

アレクサンドラパレスには大小いくつかのホールがあります。その一つ、80年間にわたり世間から忘れられ廃虚となった劇場の修復もほぼ完工予定で、ビクトリア時代の装飾を残した華麗な姿は、当時のエンターテインメント発信地としてのエネルギーを感じさせます。また、国営テレビ放送局BBCが世界で初めて36年に定期放送番組を発信した場所でもあります。

今でもコンサート会場として使用されるだけでなく、広大な公園でもさまざまな催し物がめじろ押し。例えば、ストリート・フードフェスティバル（昆布茶を販売している業者も！）、クラフトビールフェスティバル、野外シネマ、花火大会、また、丘の上から下まで滑り台を仮設で設置し、水を上から流すウオータースライドなど。

冬には、雪が降ればそり滑り（誠に残念ながら雪はめったに降りませんが、降った時には私も子供たちも雪国の血が騒ぐのか大盛り上がり！）。皆さまぜひ、少し足を延ばして丘の上まで登ってみてはいかがでしょうか？

（鈴江さんは祖母と母が十日町市出身。日系銀行調査部に勤めています）

from 上海

行き交う配送バイク

佐藤　聡さん
＝新潟市東区出身＝

上海へ赴任して約2年になります。基本的に上海から出ることはないので、中国の他地域は分からない所も多いのですが、住んでいて感じるのは大都会だということです。東京と同じように企業が集まり、それに伴い人々が中国各地から集まってきます。

さまざまな人がおり経済的に豊かな人も多いので、高級車を見かけることは東京より多いかもしれません。ベンツ、BMW、レクサス、ポルシェ、テスラー…。特にポルシェは東京より多く見かけます。個人的には東京でテスラーを見かけた記憶がありませんが、上海では頻繁に見かけます。今年1月ごろこちらのビジネスセミナーにいくつか参加した際も、自動車産業から目が離せないといった今年の見通しをお聞きしたのを思い出します。

上海の中心街で昼間は基本的にトラックを見ません。政府の方針で大型車両の通行規制があるのです。小包の配送はミニバンか電動バイクです。特に電動バイクの配送は荷台に縛り付けるように載せて走り回っており、日本では考えられないかもしれません。荷扱いに関しても日本の感覚で見てしまうとかなり粗いのですが、最近はだいぶよくなったと聞きます。

またスマートフォンを利用した出前サービスが日本より格段に進歩しており、小包同様に電動バイクに乗った配達員が昼時ともなるとオフィスビル内を駆け回っています。その配達員の給与体系によっては遅延等にペナルティーが課せられてしまうため、配達員たちも必死です。

こういった異文化での生活にも慣れてきたと言いますか、中国には日本の人口の約14倍いるのだから、さまざまな生活習慣やビジネスのやり方があると自分を納得させながら生活することに慣れてきたと言った方がいいかもしれません。

幸運なことに、上海で出会った日本人の方々にいろいろと助けていただくことも多く、何とか生活しております。

（佐藤さんは1975年生まれ。新潟運輸上海事務所に勤めています）

雨の中せわしなく走り回る配達員

from NY

各国の味 お得に堪能

阿部　倫子さん
＝NY新潟県人会会員＝

勢いと若さに任せ2004年に渡米。MBAを取得し、現地採用で証券会社に入社した。

ニューヨーカーの朝は早い。カフェやジムも朝6時前からオープンしている。私も7時には出社し、トレーダーとしてストレスだらけの日々を送っている。

最近のNYは、10年前に起きたリーマンショックの影さえない。次から次へと新築コンドミニアム、ホテル、レストラン、バーなどがオープン。街は活気にあふれ、観光客も増えているように感じる。日本からも多くの飲食産業が参入している。

もともと食べることも飲みに行くことも大好きな私は、NYに星の数ほどあるレストランに少しずつ足を運んでいる。ただ、何でもあるとはいえ決してお安くはないし、人気のお店は予約もすぐには取れない。そこで、おつまみやドリンクを低価格で提供しているハッピーアワーを利用して、どんな雰囲気か、味はどうかなどをチェックする。

私の仕事は午後4時には終わるので、ハッピーアワーに行けるのが唯一の特権だ。ビジネスマンたちも夕方早い時間からプライベートを充実させているため、ハッピーアワーはどこの店もにぎわっている。

NYのハッピーアワーはカクテル一杯8㌦前後が一般的。併せて1個1㌦でオイスターを提供している店などもある。私の行きつけの某レストランのハッピーアワーは午後7時まで、ドリンク1杯チップ込みの5㌦で楽しめる。曜日でボトルを半額で提供している店もある。またバーカウンターのみの利用であれば、終日ハッピーアワーの所も。

さまざまな国のお酒も手軽に楽しめる。スペインバーならサングリア、ブラジルならカイピリーニャ、メキシコならマルガリータ…など、人種のるつぼNYならではの醍醐味だ。NYを訪れる際には、ぜひいろいろなバーへ顔を出し、つかの間のNYライフをエンジョイしてみてほしい。

（阿部さんは1981年生まれ。父が旧栃尾市出身です）

街角のバーに出ているハッピーアワーの看板

MEDIA PORT おもしろしんぶん館

土曜日の自由見学やっています！
あそびにきませんか？

新潟日報の新聞制作の仕組みや歴史を紹介する見学施設「おもしろしんぶん館」。お気軽にご見学ください。

入場無料 | 予約不要（火～金曜 事前予約制）

「見学ワークシート」は自主学習にぴったり！

シアンのフロア わくわく！しんぶんづくり
イエローのフロア 発見！新潟日報
プロジェクションマッピングの上映館「どきどき！しんぶんシアター」も！
マゼンタのフロア 納得！印刷のひみつ
ブラックのフロア びっくり！黒埼工場

お問い合わせ
おもしろしんぶん館 新潟日報社黒埼本社（メディアポート）内
〒950-1189 新潟市西区善久772番地2
TEL.025-378-9290（火～金曜 9:30～17:30、土曜 10:00～15:00）

【見学時間】
土曜日 自由見学 10:00～15:00（最終入館は14:30）
※土曜の見学は案内係はつきません。あらかじめご了承ください。
※「どきどき！しんぶんシアター」は1日5回上映し、受付で整理券を配布します。
火曜日～金曜日 事前予約制 ①10:30～ ②13:00～

■休館日／日・月曜日、祝日、年末年始
※展示内容は主に小学校高学年向けです。
※館内での飲食はご遠慮ください。
※お子様（小学生以下）だけでの見学はできません。かならず保護者の方が付き添ってください。
※入館時に受付で代表者の住所、氏名などを記入していただきます。（個人情報は新聞の購読・試読のご案内などに使用します）

懐かしのコーナー あの日、あの時を新聞で振り返る…

ふるさと村さんとなり!!
黒埼I.C. 女池I.C. 桜木I.C. 新潟バイパス 一般道 新潟西I.C. おもしろしんぶん館 新潟ふるさと村 新潟中央I.C.

お車でご来場の場合
新潟日産自動車 新潟日報社 黒埼本社 受付 おもしろしんぶん館 駐車場70台
お車でご来館の方は 上の図の駐車場へ停めていただき、受付へお越しください。駐車場には限りがございますのであらかじめご了承ください。